

学校評価

I V Y大分高度コンピュータ専門学校

開催年月日： 令和8年5月29日

委 員：

所属	種別
公益財団法人ハイパーネットワーク研究所 理事 凍田 和美	有識者（業界団体）
国立大学法人 大分大学助教 大城 英裕	有識者（学術関係）
株式会社ザイナス システムディベロップメント事業部システムセンター部長 後藤 雅明	企業委員
株式会社アーネット 取締役事業部長 多嶋田 哲也	企業委員
アンプリファイ 代表 新名 康行	企業委員・卒業生

【令和7年度 学校関係者評価】

学校関係者評価委員まとめ

項目	自己評価	適/不適	評価	評価に係る提言・今後の改善等
(1) 教育理念・目標	3.9	適切	・「人間力の育成」は今後さらに重要視される項目であり、それに沿った素直な生徒が多い ・IT業界のニーズとして、AIを利用できつつもITの基礎情報が理解できる人材を欲している。その状況を教師陣が良く考え、適切なカリキュラムを用意していると感じる ・生徒一人一人意向を引き出すための、度量の広い校風は、理念と合致していると感じる ・学校理念・教育目標・育成人材像が明確に整理されており、専門分野の特色を踏まえた教育方針が確立されている ・資格取得や就職を重視した実践的職業教育が展開されており、業界ニーズに対応した教育体制が評価できる ・学校の将来構想や教育目標が比較的明確であり、地域社会や産業界との連携を意識した教育運営が行われている ・IT分野を中心に社会・業界ニーズを踏まえた教育内容の改善意識が高く、教育改革への姿勢が見られる ・企業・自治体との連携や産学官協働に積極的に取り組んでおり、実践力・即戦力育成を重視する教育理念が特徴的である	・強いて言えば、主体性をさらに養うことが出来る、社会での対応力は上がると考える ・問題ない。生徒が社会に出て活躍できるように。という点を重視しており、その準備としての教育ができていると思う ・「人間力の育成」に対して、社会のニーズは非常に高まっていると感じる。個性も尊重される現在に、どのようにして学生の主体性を引き出せるのか、今後の学校教育に求められるのかもしれない ・学校ホームページやSNSを活用し、教育成果・地域連携・学生活動などの情報発信を強化することで、外部評価向上が期待できる ・業界動向や国の政策変化を継続的に教育へ反映するため、企業連携委員会や外部評価体制をさらに充実させると効果的である ・「人間力育成」と「専門力育成」の成果を可視化するため、地域活動・PBL・インターンシップ等の実践教育を体系化するとより発展性が高まる

(2) 学校運営	3.6	適切	・強いて言えば、主体性をさらに養うことが出来る と、社会での対応力は上がると考える ・学科やその教育カリキュラム、シラバスを変更し ながら時代についていこうと努力している ・他の学校では得られない、専門的な技術を学ぶ環 境が、着実に整っている様に感じられる ・学校運営方針や意思決定体制が概ね明確化されて おり、組織運営の基盤は適切に整備されている ・教務・財務・組織運営に関する規定やシステムが 一定程度機能しており、安定した学校運営体制が 構築されている ・法令遵守やコンプライアンス意識が高く、私立学 校法改正への対応を含めた内部統制強化への姿勢 が評価できる ・DX推進や情報システム活用による業務効率化への 取り組みが進められており、現代的な学校運営へ の改善意識が見られる ・教職員の主体的な取り組みや組織的改善を重視し ており、変化に対応しようとする運営姿勢が確認 できる	・組織改革がひと段落したとのことですが、運営方 針を全員で共通認識とし、同じ方向を向いて取り 組んで、明るい雰囲気を持してほしい ・今後の改善への提言はなし。教育方針やシラバス の内容についてもIT産業界が求めるものになって いる。AIの普及、IPA情報処理試験の改編に付い ていくために不断の努力をしている ・少子化に伴う生徒数の減少による、学校間の競争 は激化している。「専門学校」にも求められる、 社会的な役割を再度定義し直す時期ではないかと 思う。学校の独自性や魅力を更に高めるきっかけ にもなると思う ・学位（修士・博士）を有する教員の定着・活躍を 促進するため、研究支援・処遇改善・外部研究活 動支援などを含めた中長期的人材戦略を構築する ことが望ましい ・現職教員に対するFD（Faculty Development） 活動を強化し、AI・DX・生成AI・最新業界動向な どを含めた継続的な教育力向上への投資を行うべ きである ・教員の教育実績・研究実績・学生指導・地域貢献 等を適切に評価できる人事評価制度を整備し、教育 意欲と組織活性化につなげることが期待される ・実務家教員と学術的専門性を有する教員が協働で きる組織体制を整備し、「実践力」と「高度専門 教育」を両立できる教育環境を強化するとよい ・少子化やDX時代に対応するため、教職員の業務負 担軽減とデータ活用基盤整備を進め、教育改善・ 学生支援・経営判断へ活用できる組織運営体制を 構築することが望まれる
----------	-----	----	--	---

(3) 教育活動	3.6	適切	・情報処理、デザイン工学、AI情報、ゲーム専攻と選択肢も多く、幅広くIT分野の技術を学ぶことが出来る ・教育理念の評価と同様。問題なし ・安定した就職率の維持、高い資格取得率は、専門学校に求められる社会的ニーズを満たしていると思う ・教育理念に基づいた教育課程・教育方針が体系的に整備されており、専門学校としての教育活動が安定的に運営されている ・業界ニーズを踏まえたカリキュラム編成や実践的教育（インターンシップ・実習等）が重視されており、職業教育としての実効性が高い ・成績評価・単位認定・資格取得支援などの仕組みが明確に整備され、教育の質保証に配慮した運営が行われている ・企業・業界団体との連携を通じて、教育内容の改善や実務能力育成を図る姿勢が評価できる ・教員研修や教育改善への取り組みも実施されており、教育力向上への継続的な意識が見られる	・AI情報専攻について、今後生成AIが広がる中で、仕組みを学ぶのか、使い方・どう使うかを学ぶのかを定めて、カリキュラムを設計した方がよい気がする ・ちょっと座学が多い感じがしている。インターン期間をしっかりと設けてあげたり、企業見学などを通して、社会に出たときの未来の自分のイメージを持たせる機会があってもよいように思える ・多様な価値観が認められる現在社会において、生徒のコミュニケーション能力を高める取り組みは、もっと必要なのではないか ・学生による授業評価について、個別分析に留まらず、学科横断的に分析・共有・改善へ活用するPDCAサイクルを強化するとよい ・AI・DX・ゲーム・データサイエンス等の先端分野では、連携企業との共同PBL・インターンシップ・実践型授業をさらに拡充し、教育内容の高度化を図ることが望ましい ・企業連携を推進する際には、情報管理・知的財産・ハラスメント防止・個人情報保護等を含めたコンプライアンス体制を整備し、学生が安心して実習・共同活動に参加できる環境を構築する必要がある ・実務家教員・非常勤講師・企業技術者と専任教員が連携し、最新技術や業界動向を教育へ継続的に反映できる教育体制を強化すると効果的である ・高度専門士認定や教育高度化を見据え、学修成果（Learning Outcomes）やポートフォリオ評価を体系化し、教育成果の可視化と質保証を進める
----------	-----	----	--	---

(4) 学修成果	3.6	適切	・学校主導でインターン、企業説明会、外部の就職フェアに参加する等、学生と企業が触れ合う機会を多く設定しており、お互いを知れるきっかけになる ・在学中のIPA情報処理試験の合格状況、卒業生の就職状況をみるに問題なし ・生徒の特性を活かした就職先の確保を、教職員全体で熱心に取り組んでいる様に感じる ・就職率向上に向けた取り組みが継続的に行われており、専門学校としての実践的教育成果が一定程度表れている ・資格取得支援やキャリア形成支援が実施されており、学生の職業能力向上を重視した教育姿勢が見られる ・卒業生の社会的活躍や教育成果を把握しようとする意識はあるが、追跡・分析体制については今後の強化が期待される ・学生の主体性や学習意欲を重視した教育改善への課題認識が明確であり、継続的改善への姿勢が評価できる ・創立40周年記念同窓会の開催など、卒業生ネットワークを活用した学校とのつながりづくりに取り組んでいる点は特徴的である	・面接時に極度の緊張からか、力を発揮できず肩を落としている生徒さんがよくいる。我々からしたら、緊張や言葉が詰まることは問題ではなく、問いや伝えたい思いを自分の言葉・思いで伝えてほしい。その訓練ができればお願いしたい ・就職後の定着率の低下は、社会的な大きな問題である。生徒自身が、自分のキャリア形成を深く考える機会を、更に増やす必要を感じる。また、仕事に対しての興味や主体性を引き出すことも、学習成果を高める大切な手段ではないか ・就職率向上に向けた取り組みが継続的に行われており、専門学校としての実践的教育成果が一定程度表れている ・資格取得支援やキャリア形成支援が実施されており、学生の職業能力向上を重視した教育姿勢が見られる ・卒業生の社会的活躍や教育成果を把握しようとする意識はあるが、追跡・分析体制については今後の強化が期待される ・学生の主体性や学習意欲を重視した教育改善への課題認識が明確であり、継続的改善への姿勢が評価できる ・創立40周年記念同窓会の開催など、卒業生ネットワークを活用した学校とのつながりづくりに取り組んでいる点は特徴的である
----------	-----	----	--	--

(5) 学生支援	3.8	適切	・登校指導、スクールカウンセラー配置、経済支援と支援体制は整っていると考える ・就学支援制度などうまく活用して生徒に安心して勉学に励めるように努力していると評価 ・進路・就職支援体制が整備されており、キャリア教育と職業教育を重視した学生支援が行われている ・学生相談・経済支援・健康管理など、学生生活全般を支える体制が比較的充実している点が評価できる ・保護者との連携や高校との接続を意識した取り組みが実施されており、学生支援を多面的に行う姿勢が見られる ・課外活動や創作活動支援を通じて、学生の主体性や実践力を育成しようとする教育的意図が感じられる ・ものづくり教室の新設など、学生の自主的活動を支援する環境整備に積極的に取り組んでいる点が特徴的である	・極端に成績が低い人、基礎学力の底上げなども支援できると結果全体の底上げにつながると考える ・就職担当部門とクラス担任との情報共有体制をさらに強化し、学生一人ひとりに応じた細やかな進路支援を充実させるとよい ・学生作品の学内展示・外部発表・コンテスト参加機会を増やし、学生の達成感やモチベーション向上につなげることが望ましい ・AI・ゲーム・CG・IT分野ではポートフォリオ評価が重要であるため、作品制作支援や成果公開の仕組みを体系化すると効果的である ・卒業生支援について、就職後フォロー・リスキリング講座・OB/OGネットワーク活用などを整備し、継続的なキャリア支援へ発展させるとよい ・高校段階からのキャリア教育との接続をさらに強化し、入学前教育・高大連携・体験型授業などを通じて学習意欲向上を図ることが期待される
----------	-----	----	---	---

(6) 教育環境	3.8	適切	・インフラ周りの整備、建物の改修も進んでおり、気持ちよく教育が受けられる環境は整っていると考える ・施設を改修し学びやすい環境づくりができていると思う ・校内の改修工事により、雰囲気明るくなったように感じる ・学外実習・インターンシップ・海外研修等の実践的学習環境を整備しようとする方向性が示されている ・校舎改修や避難経路整備など、学生生活に直結する施設改善が進められており、学習環境向上への取り組みが確認できる ・一方で、AI・CG・ゲーム・データサイエンス等の高度IT教育に対応するには、ネットワーク回線速度やサーバ環境、GPU計算環境などICTインフラ面の強化が今後の重要課題である	・教育に打ち込める環境が整備出来ていると考えているため、特になし ・改修された設備の活用が十分になされているか。素敵な雰囲気となった1階ロビーを、イベント等を開催することで、学校の魅力がさらに強まるのではないかと感じる ・AI・DX教育に対応するため、高速ネットワーク回線（学内Wi-Fi含む）およびクラウド・GPUサーバ環境を計画的に整備することが望ましい ・生成AI・画像生成・3DCG・ゲーム開発等に対応可能な高性能PC環境を整備し、実践的教育基盤を強化すると効果的である ・サーバ管理・認証・データ共有・LMS等を統合した学内DX基盤を整備し、教育・事務双方の効率化を図るとよい ・防災面では、地域防災計画と連動した定期訓練やICTを活用した安否確認システム導入を検討すると、危機管理体制がさらに強化される ・インターンシップ・海外研修・オンライン共同授業等を支えるハイブリッド教育環境を整備し、地域外・海外との教育連携を拡充することが期待される
----------	-----	----	--	---

(7) 学生の受入れ募集	3.8	適切	- 志望動機や学科に対する理解度、学習意欲等を適正・公平に判定し選考を行っており、選考委員会で最終合否 - 予定定員を満たすために努力している - 定期的な体験入学やオープンキャンパスは、入学希望者の早期獲得に繋がっていると思う - Instagram等のSNS活用やホームページ改善に継続的に取り組み、広報活動を分析・改善しながら実施している点に時代対応力が見られる - 学外企業や地域との連携を通じて、実践的教育や外部コンテスト等の成果を発信しようとする姿勢が、学校の魅力向上につながっている - 教職員が一体となって募集活動に取り組んでおり、少子化の中でも学校の特色や教育力を高校生へ丁寧に伝えようと努力している点が特徴的である	- 左記の方針で基礎学力の平均が一定水準を超えているのか興味がある。また入学後に基礎学力が上がるようなカリキュラムがあるとよい（方針はないと思うが） - 予定定員を満たすため、もうちょっと頑張っていただけだと思う。大分の他校との差別化などもとりいれてみてもよいかもしれない - 高校生だけでなく、ビジネススクールの要素を取り入れ、社会人などの「学び直し」や「リスキンリング」としての学生獲得も、今後必要になってくるのではないかなと思う - オープンキャンパスについては、単なる学校説明に留まらず、AI・ゲーム・CG・医療など各分野の「体験型授業」をさらに充実させると効果的である - 学外企業との共同イベントや産学連携プロジェクト成果発表を積極的に公開し、「企業とつながる専門学校」というさらなるブランド強化を図るとよい・卒業生の活躍事例や在学生作品、外部コンテスト受賞実績をSNS・動画コンテンツで継続的に発信することで、高校生への訴求力向上が期待できる - 高校教員・保護者向け説明会や地域連携イベントを拡充し、「安心して進学できる学校」としての信頼形成を強化すると望ましい - 少子化時代に対応するため、リカレント教育・社会人向け講座・オンライン講座など、新たな学生層への広報戦略も検討すると発展性が高まる
--------------	-----	----	--	--

(8) 財務	3.8	適切	・経費の無駄を極力省き、学習環境の充実を推進出来ている。(細かな数字は未確認ではあるが) ・財務諸表をみてないので不明 ・中長期的な財務基盤の安定化に向けた運営意識が高く、予算・収支計画が適切に管理されている点が評価できる ・会計監査や財務情報公開が適切に実施されており、学校法人としての透明性・信頼性確保に努めている ・学校法人会計基準改正への対応を進めるなど、法制度変更に対して適切かつ計画的に対応している点が評価できる ・新会計システム導入や内部体制整備を通じて、財務管理の高度化・効率化を図ろうとする姿勢が見られる ・少子化による学生数減少という厳しい環境の中でも、中長期的ビジョンに基づいた財務分析や経営改善に取り組んでおり、持続的學校運営への意識が高い	・特になし(強いていうなら、この点を評価する場合、評価期間における判断するための情報提示を同タイミングでいただきたい) ・新会計基準があるようで、その適用についてご注意いただければと思う。特に財産目録が必須になるようで公益法人会計に近づいたなと思う ・少子化時代に対応するため、高校生募集だけでなく、社会人リスティング・企業研修・オンライン教育など新たな収益源の多様化を検討するとよい ・AI・DX・医療分野など成長領域への重点投資を行い、教育の魅力向上と学生確保を財務安定化につなげる戦略が望ましい ・中長期財務計画について、設備投資・ICT更新・人材確保を含めたシミュレーションを継続的に行い、経営リスクへの備えを強化すると効果的である ・財務情報については、教職員への共有や経営状況の可視化を進めることで、全学的な経営意識向上につなげることが期待される ・産学連携・地域連携・外部資金獲得(補助金・共同研究・寄附等)を積極的に推進し、教育活動と財務基盤強化を両立させることが望ましい
--------	-----	----	--	--

(9) 法令等の遵守	4.0	適切	・法令順守はもとより、第三者委員会的な組織の設置により、順守できていることを担保している ・問題なく実施されていると思う ・学校教育法や私立学校法など関係法令を踏まえた学校運営が行われており、法令遵守に対する意識が高い点が評価できる ・個人情報保護に関する対策が整備されており、学生・保護者情報を適切に管理しようとする体制が構築されている ・自己評価を継続的に実施し、その結果を改善活動へつなげている点に、組織としてのPDCA意識が見られる ・自己評価結果を公表していることから、学校運営の透明性確保と社会的説明責任を重視する姿勢が評価できる ・私立学校法改正への対応や内部統制システム整備への取り組みなど、法制度変更に対して適切に対応しようとする姿勢が確認できる	・生徒も同じ（とはいえませんが）個人情報や情報セキュリティの意識をもって学校生活を送るとなおよし ・上にもある新会計基準対応を税理士さん、会計士としっかり進めていただければ大丈夫だろう。適切な補助金の受領をお願いしたい ・私立学校法改正や個人情報保護法、DX関連法規など、変化する法制度に迅速に対応できる継続的な情報収集・研修体制を強化するとよい ・内部統制システムについて、規程整備だけでなく、実際の運用状況確認や定期的点検を実施し、実効性向上を図ることが望ましい ・教職員向けコンプライアンス研修を定期的の実施し、SNS利用・生成AI利用・情報管理等を含めた現代的リスク対応を強化すると効果的である ・個人情報保護については、クラウド利用やオンライン授業拡大に伴う情報セキュリティ対策（アクセス管理・認証強化等）の継続的見直しが期待される ・自己評価結果について、学生・保護者・企業等の外部意見も反映した第三者的視点を取り入れることで、学校運営の透明性と信頼性がさらに高まる
------------	-----	----	--	---

(10) 社会貢献・地域貢献	3.8	適切	・ボランティア含め、地域活動への参加機会を作り、実践している学生が多くいると考える ・高校でも情報Ⅰの授業が開始され、大学入学共通テストでも採用されるなかで、出張授業をされているところを高く評価している ・公開講座や教育訓練事業への取り組みを通じて、地域住民や社会人に対する学び直し支援を担おうとする姿勢が見られる ・自治体・企業・団体との連携を積極的に進めており、地域課題解決型の教育・研究活動へ発展しつつある点が特徴的である ・大分県オリジナルいちご「ベリーツ」品質選別AIシステム開発研究において受賞実績を有するなど、AI技術を活用した地域貢献活動が実際の成果として現れている点は高く評価できる	・学校が提供するのではなく、学生が主体的にその機会を作り、自主的に参加できるようになるとなおよし ・引き続き取り組んでいただければと思う。若年層にIT技術者を目指す人が増えていただければと思う ・学生ボランティアに留まらず、学校全体として地域課題解決型プロジェクト（PBL）を体系化し、教育活動と地域貢献を一体化するとよい ・AI・IT・医療など学校の専門分野を活かし、自治体や地域企業との共同研究・実証実験をさらに推進することが期待される ・公開講座については、リスキリング・DX・生成AI活用など社会的需要の高いテーマを強化し、地域社会への貢献度向上を図ると効果的である ・地域イベントや成果発表会を積極的に公開し、学生作品・研究成果・地域連携事例を発信することで、学校ブランド向上にもつなげることが望ましい ・地域貢献活動の成果を定量的・継続的に評価できる仕組みを整備し、学生教育効果や地域への波及効果を可視化すると、社会的評価がさらに高まる
(11) 国際交流	—	—	—	—

<平均> 3.8